

幸せに向かう表現展について

2019年に障がい者アート展覧会vol.1「幸せに向かう表現展～やまなみ工房のアーティストたち～」と題し、滋賀県やまなみ工房で生まれる魅力的な作品の数々を展示する展覧会を、新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあギャラリーを会場に2日間限定で開催しました。今年、11月16日から20日までの5日間、再び滋賀県やまなみ工房の作品の数々を展示する展覧会を開催します。また、11/19と11/20には、各方面で活躍するゲストをお招きしてのセミナーも同時開催いたします。

障がいとは、その人個人に属するものではなく、人と人との間に生まれるものだからこそ、その関係性にこそ幸せの要素があります。やまなみ工房という居場所で育まれる関係性を感じていただき、誰もがその自由な自己実現という「幸せに向かう」ことができる社会福祉の実現へとつなげるのが本展覧会の目的です。

新潟市社会福祉協議会

幸せに向かう表現展vol.2



表現と昇華



2022.11.16(水) - 20(日) 10:00 - 17:00

場所: 新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ ギャラリー

住所: 新潟市中央区一番堀通町3-2 | 観覧無料

出展決定



さんろーどは新潟市で活動する障害福祉サービス事業所です。さんろーどの仲間たちにとって描くことは“自分を表現すること”。好きな画材を使って毎日自由に描いています。仲間の多くは描くことで身近な職員と過ごす時間を大切にしています。言葉でのコミュニケーションや人と接することが苦手な仲間も、アートボードに向かい色とりどりの絵の具で自己表現しています。

さんろーどは新潟市で活動する障害福祉サービス事業所です。さんろーどの仲間たちにとって描くことは“自分を表現すること”。好きな画材を使って毎日自由に描いています。仲間の多くは描くことで身近な職員と過ごす時間を大切にしています。言葉でのコミュニケーションや人と接することが苦手な仲間も、アートボードに向かい色とりどりの絵の具で自己表現しています。

関連企画



11/19 登壇者

山下完和 Maseta Yamashita / 「やまなみ工房」施設長

原田啓之 Hirayuki Harad / 「PJGFA」施設長

木下真 Makata Kinashita / 福祉ジャーナリスト

11/20 登壇者

山下完和 Maseta Yamashita / 「やまなみ工房」施設長

松田崇雅 Takaya Matsuda / 「へラルボニー」代表取締役社長

笠谷圭見 Yashiki Kasetani / 「PR-y」クリエイティブディレクター

やまなみ工房について



やまなみ工房に通う人達はそれぞれに「これをする事で幸せである。」があります。

やまなみ工房の“日常の中のある日”を覗いてみると、一人一人がそれぞれの方法で“特別な自分”を毎日表現しています。

粘土で何かを作る事が好きな人、絵を描くのが好きな人、歌うのが好きな人や刺繍が好きな人、おしゃべりが好きな人もいれば、一人静か好きな人、元気よく体を動かす人、じっとするのが好きな人、好きな事や得意な事は様々です。

しかしその表現の多くは今日の一般社会の中において、対価に結びつく事が難しく、行為そのものの価値や彼らの本質が見失われることも少なくありません。

互いの違いを知る事。

それぞれの価値観を大切にする事。

描きたいように描いてみよう。

つくりたいようにつくってみよう。

君は君らしく生きてみよう。

あるがままの自分が認められ存在できる場所で、自由に自分の可能性に向かう事が出来ればどんなに嬉しいことでしょう。

自分らしく過ごす日常の中で生まれた僕の色、私のカタチ。

やまなみ工房は、様々な表現から感じる個々の本質を大切に、感性とは何か、豊かさとは何かを考え、それぞれの可能性、そしてHAPPYが無限に広がる事を目指します。

11/19土 13:30~16:30 「表現が生み出される福祉の現場」

要申込み

定員40名

- 第一部 -
13:35~14:35

基調講演 原田啓之 Hiroyuki Harada
(佐賀県「PICFA」施設長)



原田啓之(はらだひろゆき)。1974年生まれ。日本福祉大学を卒業後、障害福祉サービス事業所の勤務を経て、福祉と医療とのマッチング、福祉と創作活動、社会とのつながりを推し進めることはできないかと、医療法人清明会鹿毛医院の院内にB型の施設を併設した形で、PICFAを2017年に立ち上げ、施設長として勤務。

- 第二部 -
14:35~15:25

基調講演 山下完和 Masato Yamashita
(滋賀県「やまなみ工房」施設長)



山下完和(やましたまさと)。1967年生まれ。高校卒業後さまざまな職種を経験した後、1989年から滋賀県「やまなみ共同作業所」に支援員として勤務。翌年より作業所内に「アトリエころぼくろ」を立ち上げ、自由な表現活動への取り組みをスタートさせる。2008年5月「やまなみ工房」の施設長に就任する。

- 第三部 -
15:25~16:25

鼎談 進行
木下真 Makoto Kinoshita
(福祉ジャーナリスト)
登壇者
原田啓之 Hiroyuki Harada
山下完和 Masato Yamashita



木下真(きのしたまこと)。福祉ジャーナリスト。一般社団法人障がい者スポーツ・アート・ミュージック振興協会(HANSAM)理事・ディレクター。1981年早稲田大学第一文学部卒業後、フリーランスでPR誌や雑誌の編集などに携わる。現在はNHKハートネットTVの番組リサーチやWeb記事の執筆を担当。

11/20日 13:30~16:30 「『障がい者アート』からの昇華」

要申込み

定員40名

- 第一部 -
13:35~14:35

基調講演 松田崇弥 Takaya Matsuda
(「株式会社ヘラルボニー」代表取締役社長)



松田崇弥(まつただたかや)。小山薫堂が率いるオレンジアンド・パートナーズ、プランナーを経て独立。4歳上の兄・翔太が小学校時代に記していた謎の言葉「ヘラルボニー」を社名に、双子の松田文登と共にヘラルボニーを設立。「異彩を、放て」をミッションに掲げる福祉実験ユニットを通じて、福祉領域のアップデートに挑む。

- 第二部 -
14:35~15:25

上映 映画「地蔵とリビドー」



笠谷圭見(かさたによしあき)。2011年より知的障害や精神疾患を持つアーティストによる創作物の魅力を発信するプロジェクト「PR-y(プライ)」を主宰。「DISTORTION」というコンセプトワードを掲げ、アート展やファッションブランドのプロデュース、ドキュメンタリー映画製作など、様々な領域で表現活動を行っている。

- 第三部 -
15:25~16:25

鼎談 進行
山下完和 Masato Yamashita
登壇者
松田崇弥 Takaya Matsuda
笠谷圭見 Yoshiaki Kasatani
(「PR-y」クリエイティブディレクター)



映画「地蔵とリビドー」
独創的なアート作品を生み出し続ける障害者施設「やまなみ工房」。工房に通所するのは知的障害や精神疾患を持つアーティストたちだ。彼らの切実な表現欲求の根源を探るドキュメンタリー。

お申込み・お問い合わせ

新潟市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 025-243-4370(担当者直通電話) メール chiikifukushi@syakyo-niigatacity.or.jp

上記セミナーに参加を希望される場合のみ、申し込みが必要です。
(定員に達した場合、お申し込みをお断りさせていただきます)

①氏名、②電話番号を明記の上、件名「11/19セミナー申込み」もしくは「11/20セミナー申込み」としてお送り下さい。
(受信後、こちらよりご返信致します)